

石神地区 村政懇談会

日 時：平成 25 年 7 月 3 日（水）午後 7 時から 9 時まで

場 所：石神コミュニティセンター 2 階会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，総務部長，総合政策部長，福祉部長，
経済環境部長，建設水道部長，教育次長，議会事務局長）

事務局（課長，副参事，自治推進課職員 5 名） 計 17 名

地区自治会長（関誠一（内宿一区自治会長））

自治会長（内宿一区，外宿一区，外宿二区，内宿二区，竹瓦区） 5 名

一般社団法人自治会連合会（廣原理事（石神地区推薦），事務局長，事務局
職員 1 名） 計 3 名

参加者：外宿一区 17 名，外宿二区 11 名，内宿一区 32 名，内宿二区 16 名，竹

瓦区 7 名，その他 40 名 計 123 名

報道関係：読売新聞社

司会進行：内宿二区自治会長

《次第》

1. 開会
2. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
3. 地区自治会長あいさつ
4. 村長あいさつ並びに村政に関する説明
5. 行政からの説明
 - ・防災対策の推進について（村からの説明）
6. 「行政からの説明」についての質問
7. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
8. 「地区自治会からの事前質問・要望に関する回答」についての質問
9. 自由質問

《記録》

【6. 「行政からの説明」についての質問】

竹瓦区住民：津波の話。竹瓦には水門が 2 箇所ある。災害時において国からは水門を閉めないで逃げろと言われている。しかし水門を閉めなかった場合，集会所から一時避難所の石神小まで避難する際に道路が冠水する恐れがある。水門は必ず閉めてほしい。東日本大震災の時は豊岡の水門は閉まらなかった。竹瓦は避難する前に水門を閉めた。村としては水門を必ず閉めていただきたい。

経済環境部長：水門は国土交通省の管理になっている。国では遠隔操作で水門を閉めることを検討している。村の排水機場では非常用発電機などで対応する予定。

竹瓦区住民：国の対応を待っているだけではなく，村でできることは早急にやってほ

石神地区 村政懇談会

しい。さらに国には村から強く要求してほしい。

建設水道部長：村内には4箇所の水門がある。遠隔操作については国で今後進めるとのことである。

内宿一区住民：原子力災害について3つ質問がある。国では原発を動かす動きがある。東海村には原発があるのだから国の対応を待っているのではなく、具体的対応をしていかないといけないと思う。村における防災対策の推進の説明は先が見えない内容に思えた。竹瓦、豊岡、亀下の3地区は海拔が低い。この地区については津波避難訓練をやったと認識している。海拔が比較的高いそれ以外の地区の自治会は津波避難訓練を実施したのか。海拔が高いから津波に対する危機感が薄いので実施していないように思える。村において自主防災組織結成の目標値は30自治会すべてとなっているが、「目標」でなくすべての自治会でできるだけ早く結成するべきではないか。自主防災組織結成においては具体的な期日をもってやるべき。

経済環境部長：原子力災害の避難計画については、今年度中に災害対策計画をまとめるという話が県から出ている。しかし村長は、広域的な避難等について現実的に対策は難しいと言っている。現実的な問題等を踏まえて作り上げるのが課題。いずれにしても今年度中に村としての災害対策計画をまとめる。自治会での避難訓練については実施していないところもある。しかし、この訓練については行政が主導のものではなく、地域が自主的に行っていくものだということを御理解いただきたい。地域が訓練を実施する際には村としても支援をしていく。自主防災組織結成についても同様。村としては全地区で防災組織を結成してほしいが、地域の役割分担の中で自主的に取り組んでほしい。行政からの強制ではないのであくまで自主的に。これらの事に関して質問等があれば行政として答えていきたい。

【8. 「地区自治会からの事前質問・要望に関する回答」についての質問】

<危険道路の解消について>

外宿二区住民：前谷水田中央の道路沈下について。橋はそのままの高さだが、周りの道路、田んぼが下がっている。大雨の際、中の川のみ水が流れるのではなく、田んぼの中の水が道路まで入り込み危険。村はその場所が危険であるという認識はあるのか。通学路、主要道路であるので早急に対応していただきたい。

建設水道部長：大雨の時に村内の道路を確認するが全部は確認できていない。この場所は地盤の支持力（N値）がかなり悪い。以前にこの場所の水路を確保するためにボックスカルバートを入れて杭を打って支えようとしたがその杭自体も下がってしまうような状況であった。今回改めて現場確認し、歩道とボックスカルバートをすりつける部分の高さを測ったところ、かなり下がっていることが分かった。そこに住む人の意見も聞き、特に子供たちが通る際の水没を避けたいと感じている。車においてもマ

石神地区 村政懇談会

フラが水に浸かる等の危険がある。また、昼間でも危険があると思うが、特に夜の通行が危険であると考え。夜は橋の欄干に光るものを取り付けるなどして早急に対策したい。これまでも何度か碎石を敷いて平らに盛ってきたが、何年かで沈下してきってしまう。通常であれば下がった反動でどこかに盤膨れなどの押し上げられた状態が出るはずだがそのような状況もない。碎石やアスファルトなどの重さで自然に下がっていくのではないかと思うが、状況を調査して定期的に修繕をしていく必要がある。今後自治会と一緒に検討、対策をしていきたい。

【9. 自由質問】

内宿一区住民：石神コミセン入り口西交差点の原電通りの拡幅について。平成8年に自宅の原電通りに面した土地が東海村に買収された。買収理由は都市計画道路遠間庚塚線改良工事のため、やむなく同意した。拡幅工事はすぐに行われるものだと思っていたが、拡幅工事が行われることなく道路が開通した。この工事は予算の関係で遅れていると思っていたが、みちづくり課に問い合わせたところそのような工事の予定はないと言われた。買収の目的にはその工事内容が明記されている。本当に拡幅計画がないのか伺いたい。工事がなければ土地を戻してほしい。

建設水道部長：都市計画道路同士がぶつかる交差点の工事については県公安委員会との調整の段階で交通量や地域性をみて計画を立てる。計画の段階では拡幅する必要があると判断し、土地を買収した。平成7, 8, 9年に施行、平成10年に供用開始予定だった。実際に工事を開始する際は、ひたちなか西警察署の立会いのもと最初の計画がその地域性等と合っているかを検証することになっている。工事予定時には本来の計画時の想定よりも交通量が少なくなっていたため拡幅工事を見送ることになった。

内宿一区住民：拡幅工事の計画自体なくなったということか。

建設水道部長：そうではない。現在、県道豊岡佐和停車場線と原電通りのぶつかる交差点から歩道を整備している。その歩道の工事が庚塚線の交差点に到達した時に再度警察と協議をして、拡幅工事が入ると思う。おおむね3年の予定。

内宿一区住民：3年以内に必ずやるのか。

建設水道部長：おおむね3年。その時にまた警察と協議をして決めることになる。

竹瓦区住民：経済環境部長にお願い。竹瓦は後川水門と前川水門の2箇所がある。前川水門は経済産業省、久慈川の方は国土交通省で堤防を挟んで管理者が違う。後川水門は国土交通省の管理だと認識している。国は遠隔操作などを検討していると言っているが実際対策はされていないように思える。国の管轄といえども現状を見ると住民としては村が動いてないと思えない。村として何かしら行動してほしい。当時の部長は発電機をつけると言っていたがそれも実現されなかった。東日本大震災の時後川水門は閉まっていなかった。停電したらどうしようもないし、閉めるにしても手で

石神地区 村政懇談会

回すのには時間がかかる。今のままでは津波がきたら水門を閉めずに逃げるしかない。

建設水道部長：竹瓦には 2 つの樋管がある。平成 23 年度に国土交通省には村からも対策してもらうように要求している。前の話にも出たが、非常時用に遠隔操作システム改良工事を進めている。再度確認をするが、もうすぐ工事が始まると思う。

経済環境部長：平成 26 年度に竹瓦の排水機場に非常用発電機設置を予定している。しかし、災害はいつ起こるかわからないので前倒しも検討していきたい。

外宿一区住民：外宿一区の道路に関する件。外宿一区は道路が狭隘（きょうあい）で曲がりくねっていたり、カーブミラーがないと危険な場所が多い。スマートインターチェンジの入り口などもそうである。この地区の道路について真剣に考えてほしい。優先順位をつけてやっていただきたい。現段階での基本的考えを具体的に述べてほしい。また、石神十字路からふれあい橋の間の中央分離帯に草がたくさん生えている。草がなくなるとごみが大量にある。国の基幹道路と言えども、東海村の主要な道路であるのにそのままで恥ずかしくないのか。国の管轄で直接手入れができないというのであれば、村から地元要望として計画を立てるように国へ訴えてほしい。必要であれば外宿一区の役員も一緒に国へ出向きたいと考えている。

建設水道部長：指摘の道路についてはまず場所を確認してから対応したい。

外宿一区住民：今日は意見を述べたい。福島第一原発の事故の不安感から本日の懇談会にも多くの人が集まっていると思う。原発はないほうがいいが、原子力研究開発機構の研究は進めてほしいと思っていたところ J-PARC の問題があった。担当者の意識が低すぎ、常識が欠けていると思う。その中で村長の原発反対の意見はすばらしいと思う。これからも安全な東海村であってほしい。J-PARC の事故の時石神小では運動会だった。子供たちに悪影響は及ぼしたくない。これからも安全を守ってほしい。

竹瓦住民：村長から回答してほしい。樋管の話。堤防は東日本大震災の 10 年ほど前に 50 センチ沈下していた。それに対して国土交通省はかさ上げを行った。しかし、東日本大震災の影響でまた 30 センチ沈下したと言われている。その結果、堤防周辺の宅地や一戸建てが堤防中心から 40 メートル離れたところまで堤防の沈下に合わせたように沈下している。斜めの状態の家もある。水田については狭い範囲なのにも関わらず毎年 2 トン車 10 台分ほど土砂を入れないと平らにならない状態。特に後川地区の沈下は激しい。住民は村に対して意見を主張したいが、力が弱く届いてない。堤防側の地盤沈下について対策をしてほしい。村の援助はどうなるのか。国土交通省は意見を言ってもなかなか受け付けてくれない。村長の意見を聞きたい。

村長：震災後ということではなく、堤防のかさ上げによって地盤沈下した。その地区の地盤沈下については以前から国土交通省と交渉しており、東日本大震災の年の 3 月

石神地区 村政懇談会

中に回答の要求をお願いしていたが、震災で流れてしまった。今も話し合いの最中であり、回答を待っているところである。詳しい内容については建設水道部長から回答する。

建設水道部長：外宿二区については話があがっているように、堤防を盛ったための沈下だと思われる。今年の11月から来年6月にかけて、現場の地盤沈下が想定されるところにシートパイルの設置をして、どのくらい沈下しているか、どのくらい外宿側に動いているかを確認し、権利者と協議をしていく。その後の1年ほどで国土交通省に交渉をしていく。この旨の説明会を今年の5月28日に行った。国土交通省から6名、村から6名、権利者11名が出席した。

竹瓦住民：村長に原発について伺いたい。東海第2発電所は廃炉だということを村長は主張している。議会へ廃炉の請願書を出したが不採択されている。一方で、原発再稼働は住民投票で決めるということも言っている。これでは廃炉にするという意見を直接言っていないのではないか。国の原発に関する規制基準も新たなものが近いうちに決まると思う。それらを踏まえて東海第2発電所は今後どうすべきなのか。村長から直に簡潔に意見を聞きたい。村長の意見を聞くことでそれを踏まえて生活していけると思う。

村長：福島第一原発事故の状況を見て、地震大国に57基の原発をつくり、そのうち54基が動いていた状況は正気ではないと感じている。福島第一原発の事故による避難者は広い範囲で約16万人。東海第2原発から半径10km圏内に住む人は25万人、半径20km圏内に住む人は70万人を超える。このような場所に原発があっているのか。このような場所に原発があるのは間違いであるということに気がつかないことがおかしい。原発稼働に関して経済的理由を先にして考えるのはもはやできない。財源や雇用等の問題も考えずには進められないが、まずは東海第二原発の稼働をさせないということにして、財源や雇用などの問題は別途考えることが筋である。原発を稼働すればお金が入ってくるがそれだけには頼れない。今の状態で東海村は避難計画を立てることができるのか。計画を立てられない場合は原発を動かさないという考え方もある。東海村は全村域を予防的防護措置区域(PAZ)に指定している。原発は金になるという考えにはもう頼れない。これからはJ- PARC や既存の原子力研究開発機構を中心としたまちづくりを考えている。しかし、日本原電がなくなっていいとは思わない。日本原電は新たな役割を担うべき。日本原電を日本全国の原発会社の受け皿として、残すべき原発の運転を任せるという準国有化をすべきだと思う。廃炉はこれから増えていく。廃炉は誰がやるのか。各々の電力会社となっているが、日本原電が先駆的にその役割を果たしていければいいと思う。

以上